

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2020-002
2.研究課題名	音象徴に関する比較文化心理学的研究
3.研究期間	令和2年6月（部局長承認後）～ 令和3年3月31日
4.研究の概要	<p>意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。）</p> <p>音象徴の性質については様々な議論がなされている。音象徴は言語を問わず共通のもので、ある言語の学習経験がない場合や初めてその言語を聞く場合でも、その音象徴の意味を理解できるとされている。ある実験によると、擬音語、擬態語の理解はある程度まで言語を問わず共通であり、音象徴は生物学的な要素を持っていると考えられている。しかしながら、他の実験では、それらについての理解は限定されたものであるとも示唆されており、生物学的な要因にとどまらず、言語学的な要因があるとも考えられている。</p> <p>本実験の目的は、音象徴の一種であるオノマトペの理解度を調べることにより、その生物学的要素と言語・文化的な要素について調べることにする。3言語のオノマトペについて、それぞれの母語話者の理解度を比較することにより、音象徴の要因について、より深く理解することが期待される。</p> <p>方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと）</p> <p>日本語、ロシア語、タイ語の母語話者を予定し、口頭および掲示による募集を行う。年齢や性別などの条件はなく、それぞれの母語話者の人数は統計学的検定に必要な数を設定する。</p> <p>参加者は心理学実験ソフトウェアで制御される写真や音などの感覚刺激に対して適切な言語表現を選択したり、言語表現に合う感覚刺激を評価したり、感覚刺激に対する言語表現の対提示前後の感覚感度を測定する。</p> <p>問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと）</p> <p>文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会事務局（022-795-6103；sed-syom@grp.tohoku.ac.jp）</p>

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）